

大分市立横瀬西小学校 学力向上プラン 1（8月）

学校教育 目標	夢のために ともに学び ともにつながり ともに伸びる児童の育成 ～学び合う子 やさしい子 きたえ合う子～
育成を目指す 資質・能力	・基礎・基本を自分の力にすることも ・よく考え正しく判断し適切に伝え合うことも ・自己を調整し、粘り強く努力することも

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○各教科ともに「思考力・判断力・表現力」に課題が見られる。 国語においては、説明文の読取において、文章の内容や段落相互の関係を捉えることに課題が見られた。 算数においては、数量関係の理解や既習事項を使って解決策を探ること、自分の考えを表現することに課題が見られた。 ○どの教科においても複数の情報を整理して、必要なものを取捨選択しながら考えたり答えたりする力に課題が見られる。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○昨年度から書く活動の指導を行ってきたことで、書くことに対する苦手意識は減ってきたが、条件に合わせて書くことについては課題がある。 ○家庭学習の定着については個人差が大きい。 ○分からないことは自分で調べて解決しようとする力が弱い。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)	
	○昨年度から書く活動の指導を行ってきたことで、書くことに対する苦手意識は減ってきたが、条件に合わせて書くことについては課題がある。 ○読書活動の推進については目標冊数を達成した児童の割合が学年によって偏りがある。また、学校評価アンケート(児童)において「意欲的に読書活動に取り組んだ」の肯定的回答は89%であったが、発達の段階に適した本を借りることはできていない。 ○学校評価アンケート(保護者)で「家庭学習の目標(学年×10+10分)を達成した」の肯定的回答は78%であった。 ○学校評価アンケート(児童)で「学校で学んだことは将来社会に出た時に役立つと思う」の肯定的回答は99%であった。 ○学校評価アンケート(児童)で「人の話を最後まで聞くことができた」の肯定的回答は95%であるが、保護者に対するアンケートでは69%であり、認識の差がある。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○学校評価アンケート(教職員)において「授業の中で、小集団(ペアやグループ)学習の場を設定し、考えを伝え合わせることができた」の肯定的回答が89%であった。 ○学校評価アンケート(教職員)において「ICT機器や思考ツール、ワークシート等を活用することにより全体交流で考えを伝え合う授業を行うことができた」の肯定的回答が100%であった。	
	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○5分準備・1分前着席・休めをして待つことで落ち着いて授業に取り組むことができるようになってきた。学習規律が整ってきている。 ○基礎・基本の定着を図るため、授業の隙間時間、家庭学習において補充学習を行っている。 ○ノート指導や条件作文、日記等の書く活動の指導を通して、自分の考えなどを書く経験を積み重ねている。	

学力に関する達成指標
・単元末評価テスト(思考力・判断力・表現力)において平均75点以上 ・学校評価アンケート(児童)で「学校で学んだことが将来役に立つ」と考える児童の割合90%以上

今後の 具体的な 取組	【授業改善】		【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉		
	(授業改善テーマ) ○相手意識や目的意識をもち、自分の考えや思いを伝えようとする児童の育成を目指す授業づくり (授業改善の重点) ○「書くこと」における必然性のある言語活動の設定や自分の考えを見つめ直す場の工夫		
	〈取組内容〉	〈取組内容〉	〈家庭・地域の取組内容〉
	必然性のある言語活動の設定	自分の考えを見つめ直す場の工夫	家庭学習の習慣化 (学年×10+10)
	〈取組指標〉	〈取組指標〉	〈家庭・地域の取組指標〉
	児童が相手意識と目的意識を明確にした書く活動を学期に1回以上設定する	考えを交流する視点を与えたペアやグループ学習の場を設定を各単元で1回以上設定する	「家庭学習の手引き」や「家庭学習のチェックシート」を活用し、児童に家庭学習の声かけをする
	〈検証指標〉	〈検証指標〉	〈家庭・地域の検証指標〉
	学校評価アンケート(児童)で「相手に伝えることを意識して書くことができた」の肯定的回答80%以上	学校評価アンケート(児童)で「授業で、考えを友だちと教え合い伝え合うことができた」の肯定的回答85%以上	学校評価アンケート(保護者)で「お子さんは家庭学習の時間(学年×10+10)を守っている」の肯定的回答80%以上
	【授業改善以外の学力向上の取組】		
○授業開始1分前着席・準備・休めの全校統一した5分準備の過ごし方の徹底 ○家庭と連携した読書活動の推進(年間で低学年80冊、中学年70冊、高学年60冊) ○家庭と連携した家庭学習の取組 ○小中一貫教育で共通して取り組んでいる「合い言葉」を使った反応・聴き方の指導や学習規律及び学習の仕方の徹底 ○ドリル等を用いた反復練習、ミニテスト、補充学習による基礎・基本の定着 ○昼の活動時間や家庭学習等と連携した条件作文の取組			